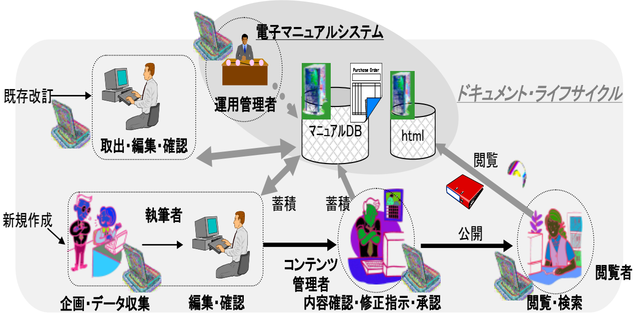
「ドキュメント電子化ソリューションの環境影響比較」

評価実施者：（株）富士通研究所　環境技術研究部　鈴木　重治

●評価の目的と製品の特徴

- ドキュメントの電子化を図るICTソリューション
- 当該製品を導入した顧客に対し，導入前後の環境改善効果を定量的に提示

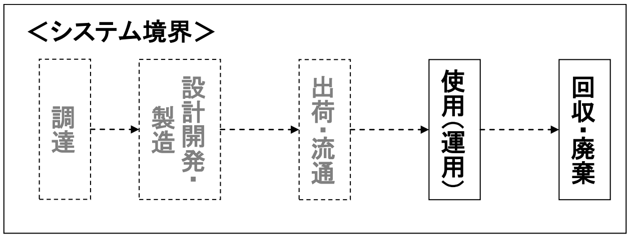


- ブラウザで，文書の更新状況，履歴，内容を確認
- 指定された公開日に，自動的に公開可能
- マニュアルはXML形式で管理，Webサーバ上でHTML形式で公開
- 既存のWord文書を流用，作成作業を効率化

●機能単位とシステム境界

機能単位　：　1年間に取り扱うマニュアル1,300冊を1,500部署に配布する際の更新作業

システム境界　：　使用，廃棄



運用および廃棄段階における，紙の消費，物の移動，　効率化，保管スペース，ICT機器電力消費について評価

●調査方法

<インベントリ分析>

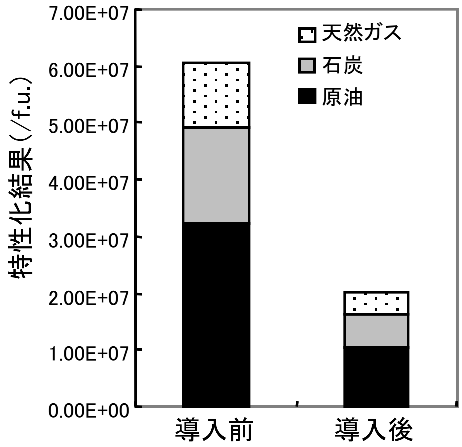
- フォアグラウンドデータ：　ソリューション運用における顧客の実測データ聞き取り調査
- バックグラウンドデータ：　2000年産業連関表による自社DB，エコリーフ（バイオマス紙焼却）

<インパクト評価>

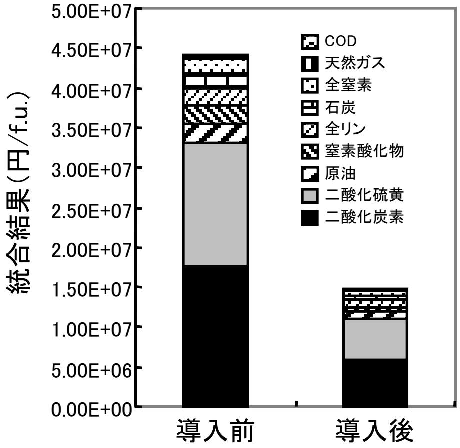
- LIME2

●評価結果

【特性化結果（資源エネルギー消費）】



【統合化結果（物質別）】



・紙消費量の削減，WEB参照による移動量の削減，効率化向上によるエネルギー（原油，石炭）消費の影響割合が大きい。

・CO2，SO2の影響が大きい。紙消費量の削減，効率化向上によるエネルギー消費量削減の効果が全体の影響削減に寄与する。

ソリューション導入により，資源エネルギー消費に由来する環境影響を大幅に低減

本評価の限界：ソリューション運用・廃棄段階のみを対象としてサーバやPCなどICT機器使用による消費電力と紙焼却のみを評価しており，機器の素材や製造を含めていない。